

(様式1)

自 己 評 価 表

(新居浜特別支援学校川西分校)

学校番号(54)

教育方針	<p>1 生きる力を身に付けるために、学ぶ意欲、豊かな心、健やかな体をバランスよく育む。</p> <p>2 「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「意欲・人間性」等の資質・能力を育成するために、主体的・対話的で深い学びを実践する。</p> <p>3 一人一人がもつ可能性を伸ばすために、障がいの状態や発達等に応じた指導・支援の充実を図る。</p> <p>4 自立と社会参加を実現するために、一人一人の学びの連続性の確保に努める。</p>	重点目標	<p>地域に生き、地域に貢献する児童生徒の育成 ～人をつなぐ、授業をつなぐ、思考をつなぐ～</p> <p>〈小学部〉 個を生かし、人と関わりながら生き生きと生活する力を育む。 〈中学部〉 集団の中で学ぶ意欲を高め、人と協働したくましく生きる力を育む。 〈高等部〉 社会参加を目指し、主体的に自己選択・自己決定し豊かに生きる力を育む。</p>
------	---	------	--

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学習指導	個に応じた指導の充実	○児童生徒の習熟度や生活経験の違い、興味・関心の特性など個々に配慮した学習内容や指導方法、教材の研究を進め、部会等で情報を共有する。	B	・児童生徒一人一人に配慮した学習内容や指導方法、教材の研究に努め、児童生徒や保護者にも認められる結果となった。情報の共有やノウハウの伝達等も日常的に行うことができた。	・児童生徒一人一人に配慮し、不断の取組として工夫・改善を続けていく。効果の上がった指導方法や教材、その作成方法等についての情報共有や、個別の指導計画の有効活用に努め、全体としての指導力の底上げを図る。
	分かる授業・楽しむ授業の実践	○教職員に対して、新しい学習指導要領の内容を周知して意識の向上を図り、授業実践につなげる。 ○ICT機器を活用している教職員が、使用方法を周囲に伝え、気軽に質問し合える機会を設け、だれもが気負わず授業で活用できるようにすることを目指す。	C	・部会等での説明やプリント配付などを行ったが十分ではなかった。周知の方法について検討の余地が残った。 ・ICT機器環境の充実に伴い、またコロナ禍で遠隔合同授業を多く経験したことから、教職員は無理なくICT機器を活用するようになっていく。授業や行事での使用方法を互いに教え合うことで裾野が広がった。	・高等部での段階的な実施の開始に向けて、引き続き内容の周知を行うこと、日頃から意識して授業に反映させられるよう徹底を図る取組を続けたい。 ・引き続きICT機器や使用環境の整備、活用に向けての研修の取組を続ける。障がいの特性に応じた学び方を工夫したり、学習上の困難を解決したりするために、さまざまな場面で一人1台端末を有効に活用する。

Ⅲ 禁

児童生徒指導	発達に即した特別活動・生徒指導の推進	<p>○学校行事や児童生徒会活動等に対して児童生徒が参加しやすい環境を設定し、必要な支援を行いながら主体的に取り組めるようにする。</p> <p>○保護者懇談や家庭訪問を適宜実施し、保護者と情報共有しながら児童生徒の実態に応じた指導支援を実践する。</p>	B	<p>・行事や児童生徒会活動を通して、子どもたちが主体的に取り組める内容を工夫した。文化祭については、分散開催で実施し、学習発表、児童生徒作品展、作業班販売などを通して、児童生徒に必要な支援を行った。ICT機器を活用して、分散型の集まりや少人数での活動を取り入れたりすることで、児童生徒が参加しやすい環境にもなった。</p> <p>・連絡帳で学校での児童生徒の様子を保護者に丁寧に伝えたり、学校ホームページを活用して行事等の様子を写真等で公開したりした。また、懇談等を活用して保護者との情報交換を密にして、児童生徒の実態に応じた指導支援に取り組んだ。</p>	<p>・引き続きICT機器を活用したり、Zoomなどの機能を使ったりして、児童生徒が行事等に参加しやすい環境づくりを工夫する。また、児童生徒会会則等の改訂に着手し、児童生徒会活動に少しでも多くの児童生徒が主体的に関わりやすい環境づくりを行う。</p> <p>・積極的に学校の情報を発信し、行事の様子を学校ホームページ等で公開したり、学校YouTubeを活用したりする。また、連絡帳や家庭訪問、懇談等で保護者との情報共有を深め、児童生徒の実態に応じた指導支援を行う。</p>
	人権・同和教育の充実	<p>○県の「令和3年度人権・同和教育指導の手引」に基づき、教職員研修を実施したり研修報告の機会を持つたりすることにより、教職員一人一人の人権意識を高める。</p>	C	<p>・校内人権教育研修会を本分校合同で開催したり、川西分校独自の人権教育研修会を別途開催したりした。市内の人権同和教育研修会には、一部の職員のみでの参加になったが、子どもたち一人一人の人権を大切にしたり関わりを常に意識して指導支援に取り組んだ。</p>	<p>・より多くの先生方へ人権・同和教育についての様々な研修会の案内を行っていく。また、教職員一人一人の人権意識の向上を目指し、校内人権教育研修会を年2回以上行ったり、教職員の人権意識についてのアンケートを行ったりして、児童生徒一人一人の人権を尊重した関わり方を見直す機会を設ける。</p>
指導路	キャリア教育の推進	<p>○キャリア教育全体計画に基づいて、一人一人の年齢や発達段階に応じた目標を検討し、日々の指導・支援につなげ、実践の経過や成果、キャリア教育の意義等を保護者に懇談等で説明する。</p> <p>○学校ホームページを活用し、キャリア教育の取組について周知する。</p>	B	<p>・キャリア教育全体計画に基づき、児童生徒一人一人の実態に応じた目標を設定し、実践に取り組めた。保護者に対し、懇談等を通じて、キャリア教育の意義や実践内容について、担任より説明を丁寧にやったことが評価につながった。</p> <p>・学校ホームページにキャリア教育の取組や進路だより等を載せて紹介を行った。</p>	<p>・今後も継続して、キャリア教育の意義を正確に伝えていく。特に新しく入学してくる児童生徒の保護者には、懇談等を活用して担任よりキャリア教育の意義と実践内容を必ず伝え、保護者への啓発に努める。</p> <p>・定期的にホームページを更新し、キャリア教育に関する取組や情報を発信するようにして、キャリア教育の推進を図る。</p>
専門性向上	教員の専門性向上	<p>○教員から要望の多い自立活動や授業実践に関する研修において、これまでの取組や内容の更なる充実を図り、専門性の向上に努める。</p>	B	<p>・教員から要望の多かった「身体の動き」「ICT機器活用」「教材・教具」の研修を中心に、自立活動や授業実践に関する研修をバランスよく実施した。特に「ICT機器活用」については、県の事業により外部講師を招くことができ、充実した内容の研修となった。</p>	<p>・Zoomを活用して会場を分散した形の研修会が多くなっている。どの場であっても内容が理解しやすいように、画像や資料、説明等を工夫しながら実施していきたい。また、校外での研修もオンラインで実施されているものが多くあるため、こまめに案内をして研修の機会を広げるようにする。</p>

Ⅲ 禁

<p>安心・安全</p>	<p>安全指導・ 危機管理の徹底</p>	<p>○危険等発生時に備え、様々な状況を想定し、警察署や消防署と連携して、危機管理研修や防災教室を行う。また、各教室や設備の安全点検を行い、安全管理に取り組む。</p> <p>○大規模災害に備え、保護者の協力を得て備品等を整備し、管理する。</p>	<p>B</p>	<p>・4回の防災教室とシェイクアウトえひめへの参加を通して、地震発生時やその後の火災、津波に対する避難訓練を実施した。消防の協力を得た訓練、体験活動も実施し、避難方法の確認と防災に対する意識を高めた。また、毎月点検表を活用した安全点検を行うことで、故障・危険個所の早期発見と修繕につなげた。児童生徒の安全な環境づくりに取り組んだ。</p> <p>・保護者と協力し、備蓄品の整備や管理を行った。備蓄品を使った昼食も実施し、児童生徒に必要な備蓄品を確認した。</p>	<p>・新型コロナウイルス感染症の状況に応じて、実施方法を検討しながら今後も様々な状況を想定した防災教室を消防とも連携しながら実施していく。</p> <p>・点検表を活用した毎月の安全点検を継続し、危険の早期発見・修繕につなげる。また、ヒヤリハットの情報を集め、それらを教職員に周知し、安全に関する注意喚起を行う。</p> <p>・保護者と協力し、学期ごとの備蓄品の整備を徹底する。また、教職員個人の備蓄品の準備の呼び掛け、学校全体としての備蓄品の拡充に事務と相談し取り組む。</p>
	<p>健康管理・医療的ケア、 個に応じた給食の充実</p>	<p>○毎日の健康観察や定期健康診断の実施により、児童生徒の健康診断を実施するとともに、感染症への対応として情報を早く正確に教職員や保護者に連絡し、迅速な対応につなげる。</p> <p>○医療機関や県と連携し、指示書やマニュアル等を活用し、より安全で安心できる医療的ケアの環境を整備する。</p> <p>○学校給食センターや再調理業者と密に連携し、児童生徒一人一人の食形態に応じた給食が安全に提供できるようにする。</p>	<p>B</p>	<p>・感染症拡大防止のための物品の整備、資料配付等による情報の提供によって、健康管理・感染拡大防止対策に対する意識を高めた。また、保護者へは、保健日より各学級から連絡帳等を通じて情報提供を行い、感染拡大防止等の個別的な対応につなげた。</p> <p>・医療的ケア主任を中心に、定期的な指示書の見直し、より分かりやすい指示書の作成を行った。また、個別の対応を中心に保護者、学級担任、看護師、主治医が連携できるように調整し、安全・安心な医療的ケアの環境づくりに努めた。</p> <p>・栄養教諭を中心に、学校給食センターや再調理業者と連携を図り、児童生徒の実態に応じた食形態を提供した。今年度も事故なく、安全な給食を実施した。</p>	<p>・新型コロナウイルス感染症等への対応に関して、県や市町からの情報を正確に教職員、保護者に伝え、校内での迅速な対応に努める。</p> <p>・医療機関、保護者との連携を図りながら、指示書の定期的な見直しを継続し、分かりやすい指示書の作成、保護者への情報提供、安全な医療的ケアの実施に努める。</p> <p>・学級担任を通じて、連絡帳や個別懇談の機会に日々の医療的ケアに関する内容を保護者と共有できるように呼び掛ける。</p> <p>・引き続き、栄養教諭を中心に学校給食センターや再調理業者と密に連携し、児童生徒の実態に応じた給食を提供する。また、学級担任を通じて、保護者と情報の共有、連携を図りながら安全な給食の実施に努める。</p>

Ⅲ 禁

地域保護者連携	保護者との連携、PTA活動の活性化	○担当部の役員が中心となり、「一人一役」の保護者と協力して、PTA行事を計画し、運営する。PTA行事の活動内容の取り組みや反省、次年度への改善を理事会会議録やPTA掲示板、学校ホームページ等で周知する。	B	・今年度も、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、PTA行事を中止したり、変更したりしながら取り組んだ。コロナ禍のため、PTA役員のみでの計画・運営となった。PTA活動は少ないながらも、PTA役員がPTA活動報告を掲示したり、学校がPTA理事会の会議録を配付したり、学校ホームページで活動内容を知らせたりすることで一定の理解は進んでいる。	・コロナ禍でも積極的なPTA活動を計画し実施するために、PTA役員と「一人一役」の保護者が協力をして、少人数で、効率的にPTA行事を運営していけるような体制づくりと内容の見直しをしていく。 ・理事会で話し合ったPTA行事の反省や改善点を詳しく掲載した会議録の配布やPTA活動報告の掲示、また学校ホームページで、PTA活動の可視化に取り組み、理解と啓発に努めるとともに、積極的な参加につなげていく。
	地域との連携、センター的機能の充実	○地域のニーズに応じて、教育・医療・福祉等関係機関と情報共有を図りながら、校外からの相談支援の要請に100%応え、個別に丁寧に、就学相談や肢体不自由教育に関する適切な情報提供を行う。	B	・外部からの教育相談や学校見学等の要請は11件あり、全ての要請に応じることができている。相談内容に応じて、特別支援教育コーディネーターを中心に、2、3名の教員で相談支援を行い、適切な就学先や在籍校での支援方法について情報提供を行った。また、小・中学校の特別支援学級担当者研修に参加し、情報共有や助言を行った。	・引き続き、校内外の関係者と密に連携を図り、早期からの教育相談や、継続した訪問支援等、肢体不自由教育に関する適切な情報提供を、積極的に行っていく。
教職員業務働き方改善	勤務時間の適正化に向けた教職員の意識改革	○教職員一人一人がメリハリのある働き方を意識できるよう、校内一斉の定時退庁日(リフレッシュデー)を週1日程度設定し、リフレッシュデーには放課後の会議を実施しないことを徹底する。また、夏季休業中に複数日、学校閉庁日を設けるなど、年次有給休暇が計画的に取得できる環境整備に努める。	C	・一斉退庁日を設定した曜日には16時以降の会議を設定しないなど徹底した取組が行えた。また、一斉退庁日以外でも定時に退庁しようとする教職員が増えてきた。年次有給休暇は長期休業中などを中心に計画的に取得できている。	・一斉退庁日に退庁できない教職員もいるため、個々に定時に退庁する曜日を設定するなど働き方改革を意識した取組が行えるよう促していく。
	職場環境の整備と業務負担の軽減	○校内衛生委員会を活用し、教職員の心身の健康について早期に把握するとともに、普段から相談しやすい雰囲気づくりに努める。また、行事や会議等の精選、見直しを行い、業務負担の平準化を図る。	C	・衛生委員会や目標チャレンジシートに係る期首面談等で教職員個々の心身の健康等について把握するよう努めた。コロナ禍に応じた行事や会議等の実施方法について検討を行った。	・教職員の業務の平準化には引き続き課題がみられることから、各校務分掌の業務配分の見直しなど限られた人員で効率的に進められる体制づくりを検討する。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。